

新しい公共支援事業の成果等報告(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

平成24年度中間報告書

1 事業実施内容

事業名	日本一のバリアフリー観光県づくり	
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠	
事業実施主体名	特定非営利活動法人 伊勢志摩バリアフリースターセンター	
事業概要	<p>本事業の目的は、三重県を日本一のバリアフリー観光県にすることによる、県内観光各地の集客振興と、三重県のノーマライゼーション化の社会的実現である。伊勢志摩でのバリアフリー観光推進の実績と、全国のバリアフリー観光地が採用する「パーソナルバリアフリー基準」の開発および指導者としての実績をもって、三重県全域の観光施設および宿泊施設を対象に、調査、アドバイスするとともに、障がいのある旅行者からの相談を全県カバーして受け、トラブル無く紹介斡旋する。また、その過程と達成により、地域社会のノーマライゼーション化を実現する。</p>	
委託額 (内訳は別紙参照)	平成23年度	3,102,400円
	平成24年度	5,008,040円
マルチステークホルダー（会議体）の取組状況	●協働事業参加組織	
	三重県健康福祉総務課	
	三重県観光政策課	
	三重県観光誘客課	
	●会議の実施状況	
	実施月日	会議の議題
	5月11日・14日	東紀州地区専門員と研修会会場の検討→熊野倶楽部へ
	5月28日	旅行形態についての相談
	6月6日	亀山市・亀山社会福祉協議会・観光協会で亀山地区における勉強会の会場検討、日時検討を行う
	6月19日	勉強会の役割分担検討
6月28日	熊野倶楽部へ日程、時間、会議室の確認	
6月	亀山市、亀山社会福祉協議会、亀山観光協会勉強会の後援依頼	
7月2日	熊野倶楽部 障がい者訪問時の注意点確認	
7月3日	三重県健康福祉総務課UDグループへ亀山の勉強会のお知らせをアドバイザーの方々に連絡してほしい依頼。	
7月25日	亀山市の市民団体と勉強会当日の質疑応答	

<p>取組内容</p>	<p>●これまで取り組んできた内容 (伊賀地区) 勉強会開催・専門員研修会開催・現状バリアフリー調査開始 11 件 (松阪地区) 勉強会開催・専門員研修開催・現状バリアフリー調査開始 4 件 (東紀州地区) 勉強会開催・専門員研修開催 調査 1 件 (志摩地区) 勉強会開催・専門員研修開催 調査 1 件 (亀山地区) 勉強会開催・研修会開催 調査1件</p> <p>●当初(採択時)に計画していた内容から変更したこと 当初モデル地域として ①伊賀地区 ②松阪地区 ③榊原温泉地域 ④東紀州地区 ⑤志摩地区 となっていたが、③の榊原地区の協力がなかなか望めなかったため、2年次に変更して亀山地区を取り入れた。 HP作成費用を計上したい。</p> <p>●現状の成果と課題 各地域の勉強会はすべて完了。専門員研修についても、残すところ、亀山地区のみとなったが亀山地区も既に開催決定している。 バリアフリー調査が始まり、始まるまでには、調査員が集まるか？または集まってもみなさんのやる気がでてくるか？と心配をしていたが、それらは全く問題なく、調査の人数調整をしなくてはいけなほど、調査希望者が確保できた。 地元の障がい者たちが水を得た魚のように楽しく調査している姿が印象的。 また、伊勢志摩バリアフリースターセンターの持論である、「行ってみなくてはわからない情報」がすでに、調査を行なった、松阪地区、伊賀地区にも当てはまる出来事があった。</p> <p>松阪地区 本居宣長記念館においては、バリアフリー調査依頼をかけた当初は、段差があること、また地元車いす利用者からもかなりハードが厳しいという方法があったが、行ってみれば、トイレ経由になるが裏口にスロープあり、そこから館内に入ることができ、調査に行ってみないとわからないということが実証できた。</p> <p>伊賀上野地区 名張青蓮寺湖のぶどう狩り調査において、5 農家すべてに車いす対応トイレがあった。これらに対して、地元の障がい者自身も情報がなく、「ぶどう狩りが車いすで出来ると思っていなかった」と、感動していました。</p> <p>また、施設のスタッフが同行することによって、その施設独自の取り組みを知ったり、特別な貸し出し物があったり、また、一緒にまわるうちに、こちらからのバリアフリーアドバイスをすることもできた。普通に訪れているだけは気づけないことがたくさんあり、専門員としても、そのような情報にとっても感動してくれた。 課題としては、現在は少しではあるが、調査日当を出しているが、日当がでなくても専門員として動いてくれるのか？ということが、心配である。</p>																		
<p>今後(平成24年度下半期)の取組予定内容</p>	<table border="0"> <tr> <td>亀山地区</td> <td>専門員研修会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>伊賀地区</td> <td>バリアフリー調査</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>松阪地区</td> <td>バリアフリー調査</td> <td>9件</td> </tr> <tr> <td>志摩地区</td> <td>バリアフリー調査</td> <td>9件</td> </tr> <tr> <td>東紀州地区</td> <td>バリアフリー調査</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>亀山地区</td> <td>バリアフリー調査</td> <td>5件</td> </tr> </table>	亀山地区	専門員研修会		伊賀地区	バリアフリー調査	4件	松阪地区	バリアフリー調査	9件	志摩地区	バリアフリー調査	9件	東紀州地区	バリアフリー調査	6件	亀山地区	バリアフリー調査	5件
亀山地区	専門員研修会																		
伊賀地区	バリアフリー調査	4件																	
松阪地区	バリアフリー調査	9件																	
志摩地区	バリアフリー調査	9件																	
東紀州地区	バリアフリー調査	6件																	
亀山地区	バリアフリー調査	5件																	

	<p>ホームページ作成</p> <p>プレスリリース</p>
<p>平成25年度以降 の見通し</p>	<p>24年度中に、ホームページにて、伊賀地区・松阪地区・志摩地区・東紀州地区・亀山地区のバリアフリー観光情報の発信を行い、三重バリアフリーツアーセンターを立ち上げ、電話、メール等の問い合わせに対して対応していくことを継続。専門員のネットワークをつくっていき、尻つぼみになりがちな、専門員の活動を活動していきやすい形をつくる。各地域における調査がきちんと「パーソナルバリアフリー基準」をベースに行われているか？ということをチェックするのにもかねながら、まかせっきりにするのではなく、定期的に時には調査に同行したり、コミュニケーションを図りながら、交流を持っていくようにする。</p> <p>伊勢志摩と他地域をからめた観光プランの提案などをホームページが問い合わせのあったお客様などにも発信する。</p>

2 成果の達成状況等

平成 24 年度に 達成しようと する成果	①バリアフリー調査およびアドバイス活動 ②調査情報のデータ化とサイトへの公開 ③利用者からの相談受付および斡旋			
具体的な指標 の達成状況等	項目	当初目標設定	9 月末日の 達成状況	平成 25 年 3 月末 達成見込み
	①勉強会	目標値(1ヶ所)/現状(0)	1	1
	研修会	目標値(3ヶ所)/現状(0)	3	3
	調査・アドバイス	目標値(50 施設) /現状(0)	16	50
	②サイト公開	目標値(50 施設) /現状(0)	0	50
	③相談受付	目標値(30 回)/ 現状(0)	3	30
	●成果指標の達成状況			
繁忙期に調査が出来ないため、なかなか調査日を集中して出来ない時期がある。そのため、少し調査が遅れがちである。				
●課題 および その改善方針				
達成状況にあるように、全体的に、おくれがちであるところを、スピードアップを図る。調査、同行にも伊勢志摩バリアフリーツアーセンターから現在 2 名で行っているが、一名体制で、対応し、その分、もう一名を違う地域で調査を行なうなど、役割分担を図る。 その上で、HPを進めていくための担当も決め、それぞれが並行して動いていくようにする。				
現状の	評価ランク			
自己評価	<input type="checkbox"/> S:特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> A:優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B:一定の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C:限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D:成果が得られなかった (該当する評価にチェックを付けてください)			